社会福祉法人

2020 悠久会 YDGs

心通う社会実現のための15の目標

1 尊厳ある生活を実現しよう

2 潜在能力を引き出そう

3 最善の支援を志そう

4 笑顔あふれる生活を

5 住み慣れたまちでの生活を守ろう

6 経済好循環を生み出そう

7 個々が輝く組織であろう

8 信頼と納得に基づいた満足感を

9 次へ踏み出す共感をみんなへ

10 シェアの文化を創出しよう

11 地域社会へ貢献しよう

12 声なき声を吸い上げよう

13 開かれた場所であろう

14 みんなで協力し合おう

15 彩り豊かな生活を

ビジョン

悠久会が実現すべき
2030年の姿
＝
将来像

ミッション

悠久会が担うべき使命
＝
構想実現のための3本柱
＝
経営指針「～心を育む」

ゴール

悠久会だからこそ掲げられる
分野別基本目標
＝
YDGs

あらゆる立場のすべての人々の心が通い合う社会

優しい心

- 目標1 尊厳ある生活を実現しよう
- 目標2 潜在能力を引き出そう
- 目標3 最善の支援を志そう
- 目標4 笑顔あふれる生活を
- 目標5 住み慣れたまちでの生活を守ろう

ゆとりある心

- 目標6 経済好循環を生み出そう
- 目標7 組織力を強化しよう
- 目標8 サービスの質を向上させよう
- 目標9 共感を生み出そう
- 目標10 シェアの文化を創出しよう

喜びの心

- 目標11 地域社会へ貢献しよう
- 目標12 声なき声を吸い上げよう
- 目標13 開かれた場所であろう
- 目標14 みんなで協力し合おう
- 目標15 質の高い生活に彩りを

社会福祉法人 悠久会

優しい心

目標 1

尊厳ある生活を実現しよう

すべての人々の個性や希望を尊重できる意思決定支援を行いそれぞれの立場にたったサービスを提供しよう

利用者の尊厳

集団として捉えるのではなく個人を尊重し、それぞれの人の心を知ろうとする姿勢が大切です。
画一的なサービスではなくその人その人に応じたサービスを提供しましょう。
人間らしさとはどういったことなのかを考え、法令に定められたサービスに限定せず
すべてのあらゆる人たちの人生に輝きや彩りを添えましょう。
思いやりを持って慮ることを重要視した意思決定支援を確立し、会話や行動をみて察していく努力を続けましょう。

優しい心

目標 2

潜在能力を引き出そう

それぞれの持つ能力を引き出せる支援を行い、地域で自立しその人らしい生活をおくれるよう働きかけよう

自立支援

それぞれの人たちの持つ潜在的な可能性を信じ
それらを引き出し開花させられるようなエンパワーメントを担いましょう。
社会的包摂という意味におけるコミュニティ形成の中で排除される存在があってはなりません。
特定の立場の人に対し、特定の生活様式を押し付けるような地域であってはなりません。
それぞれの人がその人らしい多様な生き方を指し示す選択肢を私たち自らが創っていきましょう。

優しい心

目標 3

最善の支援を志そう

幸せでより良き生活を実現するために信頼と納得に基づいた最善・最良の支援を目指そう

最善の支援

それぞれの人々の意思を決定するために、最新かつ最良の根拠を明示し思慮深く用いましょう。
そして最も効果的で最良の根拠を積み上げていきましょう。
妥当性や有用性という観点においてもその根拠を批判的に検証するべきなのです。
こういった専門技量と想い・情熱とを統合し、実践現場にその結果を応用していくための体制を整えましょう。
何のための専門性なのかということを常に問いかけよう。

優しい心

目標 4

笑顔あふれる生活を

すべての人々が安心して生活できるよう、あらゆる権利を守り高める先導者であろう

心穏やかな生活

あらゆる暴力や恐怖及び排除から解放されることによって得られる
安心感、貧困を撲滅するという世界の実現が求められます。
生命の安全は当然のことながら、社会や地域から排除されないよう
私たちが地域とのタッチポイントとなりましょう。
従来認められてきた人権の範囲に満足せず、どうしたらまわりの人たちを笑顔にし、
心穏やかに生活してもらえるのか。
そのために達成しなければならないことは何であるのかを追求しましょう。

優しい心

目標 5

住み慣れたまちでの生活を守ろう

住み慣れた地域での生活を継続するために強くしなやかなセーフティネットを構築しよう

サービスの継続性

ご高齢の方々や対応が難しい方々へも支援の輪を拡げていきましょう。
社会や価値観が複雑化したことからニーズや対象者の幅も多様化しています。
共生型サービスという視点も持ち併せ、範囲を限定せずにあらゆる人たちを対象としたサービスを構築しましょう。
そのために専門機能を発揮し、ネットワークを強化しましょう。

ゆとりある心

目標 6

経済好循環を生み出そう

地域に根差した就労支援事業を展開し、地域経済の好循環拡大に貢献しましょう

相乗効果

地方創生時代における社会貢献を目指しましょう。
働くことは人や社会と関わることであり、地域とのつながりを生み出します。
このつながりの中で、必要とされ働く。そして働くことで経済効果が生まれる。
このようにして、地域に根差した「生産と消費」は経済的なつながりをも生み出し、経済的好循環を生み出します。

ゆとりある心

目標 7

個々が輝く組織であろう

法人の有するポテンシャルを最大限発揮できる組織を作り、共生社会の実現に向けてそれぞれが協力しあっていきましょう

ガバナンス構築

社会福祉法人の使命、つまりこの世界のあらゆる人々がその潜在能力を最大限発揮し
それぞれが関わり合うことで調和する心豊かな共生社会を実現させるために
まずは私達自身の潜在能力を発揮できる組織づくりに努めます。
時代やニーズに変化があったとしてもしなやかに柔軟に対応できる適応力を個々が備えることによって
法人内外の相互に関りを作ることができるリーダーが自然と育つような組織体制を目指します。

ゆとりある心

目標 8

信頼と納得に基づいた満足感を

信頼と納得を得るために、業務改善力及び実践力を有する人材を育成し最善・最良の支援を行うことでサービスの質の向上に努めます。

ガバナンス構築

自分たちが提供できるサービスが何か、ということから支援を組み立てるのではなく
自分たちに何が求められているのかという視点を持ち、利用者の方々、そしてそのご家族
更には地域の方々が満足できるようなサービスを追求します。
これが独りよがりになってしまうことがないように、常に双方向の流れを持った関係性を構築し
より良いサービスを追求し続けていきます。
私たちは、この姿勢こそが相対するあらゆる人々の満足感につながっていくと考えます。
「納得」には、客観性やエビデンスの担保、科学的介護の導入と実践が求められ
「信頼」には、職務に誠実であることや理念に基づいた言動を行うことが求められるのです。

ゆとりある心

目標 9

次へ踏み出す共感をみんなへ

福祉の未来を担う若者にその魅力を伝えると共に風通しの良い組織であることを通して地域からの共感を生み出しましょう

コミュニケーション

共生社会を実現するには、相互理解が必要不可欠です。当然のことながら発信しなければ伝わらないのです。
それぞれの立場から双方向のコミュニケーションを推進していきます。
従来の日本の社会福祉のあり方から一歩踏み込んだ地域との関わり合いを私たちは望んでいます。
そのために私たちの活動を地域から求められるだけではなく
認められ、そして時には応援されるような「お互い様」の関係性を作り出しましょう。
そして今だけではなく未来をも見つめ、福祉の未来を担う次の世代の関心事に私たち自身も興味を持って
対話を試みます。

ゆとりある心

目標 10

シェアの文化を創出しよう

あらゆる人々の潜在能力が発揮されるようなシェアの文化創出のための工夫を施そう

資源の共有化

法人内においては、人的資源及び物的資源、情報的資源が十分に活用されているとは言い難い。
これらを満足に活用するためには風土及び意識変革が必要です。
さらに資源を可視化することでシェアが促進されます。
この仕組みを地域にも拡げ、地域全体の福祉力を向上させ
情報共有の推進とコミュニケーションの活発化によって信頼関係に基づくシェアの文化を創出しよう。

喜びの心

目標 11

地域社会へ貢献しよう

社会福祉法人の果たすべき使命を自覚し、利用者支援、事業活動を通じて地域社会への貢献を行います

循環型社会

「誰ひとり取り残さない」というスローガンに基づいた社会的包摂性を
セーフティネットの最後の砦という役割を通じて実現したい。
特に社会福祉法人という立場から、公益性や公共性、非営利性といった方向性を前提として
悠久会としての独自性を含める必要がある。地域や人から必要とされることが私たちの存在価値。
三方よしの精神を組織全体に浸透させて
私たち自身の地域における役割を自覚するところからすべてが始まるのです。
これが起点となって感謝や共感が循環する持続可能な地域となるのです。

喜びの心

目標 12

声なき声を吸い上げよう

誰一人取り残さない社会を実現するために、積極的に潜在的ニーズにもアウトリーチし
制度の狭間に陥った人達を支援することで社会的孤立をなくします。

働きかける力

支援の対象者は自ら相談できる人ばかりではありません。
相談する力がないくらい弱っている人がいる現実を受け止める必要があります。
この先の未来で、今までになかった困りごとをいち早く察知し、先駆けて耳を傾ける。
対症療法的な相談支援ではなく地域全体の福祉力を向上させて人々の生きづらさを減らしていく。
これが私たちの考えるソーシャルアクションであり、身につけたい「社会に働きかける力」なのです。
これを備えるためには普段から地域との関係性を強く意識して行動する必要があります。

喜びの心

目標 13

開かれた場所であろう

社会資源の一つとして、私たちが地域交流の場そのものとなり、その機能を地域へ広く開放しましょう

オープンイノベーション

法人が有する事業所をハード、機能をソフトと捉え、これらを地域の公共財として扱います。
そして「福祉分野以外にも応用することがまちづくりに寄与できる」という発想を持っています。
関わり合う人たちが福祉関係者のみではないことを念頭に置き
自らも支援者である前に地域に暮らす市民であることを自覚しよう。
職員が市民として能動的にまちづくりに対して関与できる環境を整えるためには
法人そのものが地域に開かれた場所である必要があります。

喜びの心

目標 14

みんなで協力し合おう

地域におけるその人らしい生活を支えるために、福祉の垣根を越えた連携を率先して行い
ソーシャルワーク機能を発揮することで、地域生活支援ネットワークを強固なものにします。

パートナーシップ

利用者の生活を構成する要素は福祉の領域に留まらず
多様な領域とが重層的に重なり合っており、私たちの法人内では完結しません。
なので、私たちは、この地域において利用者の生活を構成する要素を常に把握し
どのように働きかけるべきなのかを考えます。
これを実行するためには、福祉の垣根を越えた多様な関係者との連携が大前提となり
私たちは自身の強みであるケアマネジメントの視点から自前主義ではなく
枠にとらわれず包括的に社会の課題を解決します。

喜びの心

目標 15

彩り豊かな生活を

生活の質を向上させるために、文化・芸術・スポーツ活動を推進し余暇活動を充実させることで、生活に彩りをもたらします。

QOL

生活を維持するために必要な最低限度の支援はもちろんのこと
文化・芸術・スポーツ活動を通してQOL（生活の質）向上の観点を付加します。
こういったプラスαの取り組みを加えていくことによって選択肢の幅が広がり
「心の豊かさはどのような作用から生まれ出るのか」ということを考えられるようになります。
ただ単なる生活支援という意味合いではなく、共に楽しみ笑顔あふれる時間を共有することによって
職員自身の多様な価値観を尊重することにつながると考えています。